

三寒四温を繰り返しながら春が近づいてまいります。温かい日は心はずみながら編集子は花粉症が厳しくなります。なかなかすっきりと行かない季節、そして異動の季節でもあります。環境の変化に心身の辛さが増すかたもいるかもしれません。そんなときは外に出て道端の花に目を向けて気分転換。よい春を。

松沢病院における精神科看護教育

当院の看護教育は、都立病院共通のキャリア発達支援ガイドラインをもとに、個々のキャリアラダーレベルに合った知識・技術が習得できるよう、集合研修やOJTを実施しています。また、精神障害者が住み慣れた地域でその人らしく安心して生活できるよう、包括的暴力防止プログラム(CVPPP)の基本的理念である「ケアとして真剣に当事者を助ける、Person-centeredにその人とかわる」ことを大切にしています。院内研修には、ソーシャルスキルトレーニング(SST)や認知行動療法(CBT)、急変時対応力向上研修など、精神科看護に必要な内容を計画し、「こころと身体も看られる看護職員」の育成に力を入れています。さらに、都立看護専門学校や看護大学等から年間延3,800人以上の精神看護学臨床実習生を受け入れており、各病棟の専任実習指導者や医師、受け

持ち患者さんから多くの学びが得られることから実習満足度は高く、臨地実習指導体制も充実しています。

今後、さらに質の高い精神科看護を実践するために、保健・福祉・医療に関わる方々や地域住民の方々との連携を深めるとともに、多職種によるチーム医療を推進できる看護職員を育成したいと考えています。

文/看護部長 郷由里子



外来診療のご案内

初めて診療を希望される方

◆松沢病院では、初診予約制を導入しています。事前に予約センターで予約をお願いいたします。

- 精神科 ●内科(一般・専門) ●外科
- 整形外科 ●形成外科 ●脳神経外科
- リハビリテーション科 ●麻酔科 ●眼科

初回にご持参いただくもの

- 紹介状 ●健康保険証 ●各種医療券
- 診察券(松沢病院の診察券をお持ちの場合)
- レントゲンフィルム・検査結果等(必要な場合のみ)

◆診療の予約は「予約センター」(03-3303-8379)にお電話ください。

予約受付時間 月～金曜日 8時30分～17時15分
土曜日 8時30分～12時45分

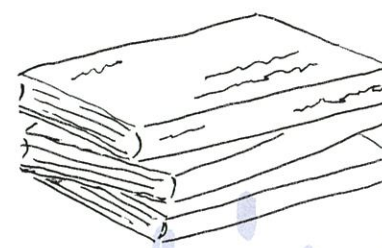
◆当院精神科通院中で緊急の受診や緊急入院が必要な場合は代表番号03-3303-7211にお電話ください。

◆当院精神科通院中でなく緊急の受診や緊急入院が必要な場合は「精神科緊急初診窓口」(050-5526-6567)にお電話ください。

松沢病院通信

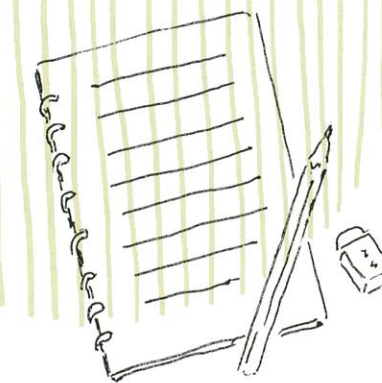
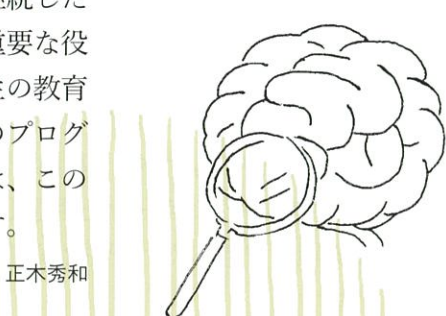
特集 松沢病院の精神科教育

松沢病院では、およそ60人の医師と500人の看護師が働いています。毎年4月には医学部や看護学部を卒業したばかりの職員が入职します。新入職員を社会人として育て、精神科医療や看護の提供で活躍してもらうために、松沢病院が行っている教育についてお伝えします。



当院は、東京都の精神科医療の中心的な役割を担っている病院です。その役割は診療を行うことにとどまらず、医師、看護師、学生らの教育も求められています。人材育成なくして充実した医療の提供はあり得ません。医師については、精神科専門医研修を行っていることに加え、初期臨床研修の基幹プログラムを有し、医学部卒業後から精神科専門医になるまでの継続した教育体制を整えています。学生教育も当院の重要な役割と位置付けられています。看護師や看護学生の教育は、都立病院共通の教育システムに当院独自のプログラムを載せています。今回の松沢病院通信では、このような当院の精神科教育についてご紹介します。

文/精神科部長 正木秀和



初期臨床研修

松沢病院は、東京都における精神科医療の拠点病院であり、東京都災害拠点精神科病院にも指定されています。

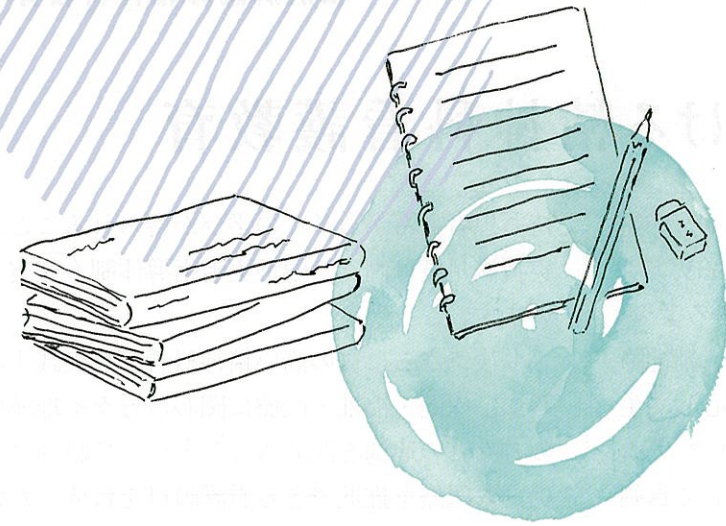
当院での研修のメリットは大きく2点あります。

1点目は、精神科患者さんの身体的治療である合併症医療を経験できることです。身体科と精神科の医師が、これほど協力して精神科患者さんの治療に取り組み、これほどお互いに相談しやすい環境で働ける病院は、全国でも数少ないと思います。

2点目は、指導医との距離が近く、検査・鑑別診断・治療までの流れを直接丁寧に研修できることです。精神科合併症医療では、患者さん自身が体調不良を表現することが困難で、発見から治療に至るまでの道りも険しいです。こういった合併症医療の現状と、将来の精神科医療にとっての課題を体感できると思います。

松沢病院は、精神科医師を目指す先生方にとって、貴重な経験が得られる環境です。

文／初期臨床研修管理委員長 整形外科医長 吉田滋之



精神科専門医研修

当院の精神科専門医研修の最大の特徴は、圧倒的な症例数を体験できることにあります。精神科救急病棟、急性期病棟、身体合併症病棟、リハビリ病棟、思春期病棟、認知症病棟、依存症病棟、医療観察法病棟など様々な特徴をもつ病棟があり、措置入院を含むあらゆる入院形態のあらゆる精神疾患の診療を、指導医の指導の下で体験することができます。また、デイケア、精神科作業療法、心理検査や心理療法などについても、専門スタッフとともに学ぶことができます。外来研修は、入院で受け持った患者さんの外来を担当することで、入院から退院後までの継続的な診療を経験できます。また、新患の予診を担当することで、精神科診療の方法を上級医から学んでいます。専攻医のためのクルズスは、基本的な精神疾患の診断、薬物療法、精神療法から、精神科救急の実際、診断書の書き方、精神保健指定医や精神科専門医を取得するためのレポートの書き方まで幅の広いテーマを用意していて、専攻医に必要な知識をできるだけ早期から得られるように工夫しています。

当院の精神科専門医研修プログラムでは、都立病院、大学病院、地域精神医療の基幹病院等と連携し、さらに総合的に精神科医療を研修することができます。3年間の研修期間のうち、松沢病院で2年間、連携施設で1年間研修を行っています。連携施設研修は、東京都外の医師充足率の低い地域の施設で行っています。これまでに、聖マリアンナ医科大学病院と函館渡辺病院で実際に研修をしていますが、その他、北海道大学病院、埼玉医科大学病院、千葉県精神科医療センター、神奈川県立精神医療センター、大阪精神医療センター、

山口県立こころの医療センターなど様々な地域の病院と連携しています。2023年度から、埼玉県立精神医療センター、済生会横浜市東部病院と連携し、さらに2024年度から、あさかホスピタル、大宮厚生病院、五色台病院が加わる予定となっています。

文／精神科専門医研修プログラム管理委員長 精神科部長 正木秀和



精神科医のリスキリング～身体合併症研修

精神疾患（統合失調症や双極性障害）のある人の平均寿命が一般人口に比べて15-20年も短いことはよく知られており、心血管系疾患やがんといった疾患の診断や治療の遅れが大きな要因になっています。精神科患者さんは精神科以外に受診していないことが多く、精神科医が身体疾患の知識をもつことは生命予後延長のために重要だと考えられます。

一方で、精神科研修はひととおり修了したが、気づいてみると初期研修で学んだはずの身体科治療はすっかり忘れてしまった・・・、このままでは開業もおぼつかない、単科精神科病院で相談相手がおらず不安だ、という精神科医師の声を聞きます。精神科医として幅広いニーズに応えられる医師となるために、精神科研修が修了したタイミングでもう一度しっかりと身体科治療に専念する経験を持つことは、地域医療の時代に求められるスキルを磨く貴重な時間になると思います。

松沢病院では、身体合併症病棟（精神科病床 約90

床）、一般病床（約30床）において、内科（消化器、循環器、呼吸器、脳神経、感染症、リウマチ、腎、透析、緩和等）、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、歯科等の専門医と、初期研修医が働いています。入院患者さんはほとんどが精神疾患のある方です。精神疾患に合併しやすい身体疾患（肺炎、麻痺性イレウス、糖尿病、悪性昏迷など）、向精神薬の副作用（リチウム中毒、錐体外路症状など）、器質性精神障害の診断・治療、神経疾患診療のトレーニング、摂食障害患者さんの管理、精神疾患のある患者さんの緩和医療など、通常の総合病院ではなかなか診ることができないけれども精神科医にとって必要性の高い症例を効率よく研修することができます。また、病棟スタッフが患者さんのために必要なことを最優先に考えられる環境が整っておりますので、精神科、身体科両面からの診療を研修することができます。

文／内科医長（精神保健指定医） 石田琢人

当院における医学生教育

医学生教育は大学病院を中心に行われますが、精神科の教育は大学病院だけで完結するものではありません。当院ではこれまで、東京大学、東京医科歯科大学、帝京大学など数多くの大学から病院実習を引き受けました。とりわけ2019年度からは、東京女子医科大学5年生全員（約100名）の2週間にわたる精神科臨床実習を引き受けしています。慢性期の患者さんを受け持

つほか、デイケアや作業療法に参加するなど、大学病院では体験することが困難な実習プログラムを作成しています。将来精神科に進む医師にはもちろんのこと、その他の科に進む医師にも精神疾患について理解を深めてもらうことは医学教育上重要な課題です。医学生教育を当院の重要な使命と位置づけ今後も継続していきたいと考えています。

文／精神科専門医研修プログラム管理委員長 精神科部長 正木秀和